プレスリリース第二弾 2016 年 1 月 13 日更新版

報道関係各位

NHK international, inc.

一般財団法人 NHK インターナショナル

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業 企画展 「Crazy Planet: Ghosts, Folk Monsters, and Aliens in Manga – An aspect of Japanese Media Arts–」(習合のファンタジー:日本メディア芸術の一断面) 開催のご案内

文化庁が主催、一般財団法人 NHK インターナショナルが企画・運営する「海外メディア芸術祭等参加事業」は、メディアアート、映像、ウェブ、ゲーム、アニメーション、マンガ作品等の優れたメディア芸術作品を紹介するため、海外のフェスティバルや施設において、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に展示・上映・プレゼンテーション等を実施しています。

このたび、スペイン・マドリードで 2016 年 1 月 20 日(水)から 1 月 31 日(日)まで、企画展「Crazy Planet: Ghosts, Folk Monsters, and Aliens in Manga – An aspect of Japanese Media Arts–」(習合のファンタジー:日本メディア芸術の一断面)を、MATADERO MADRID(マタデロ・マドリード)にて開催します。

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業 企画展
「Crazy Planet: Ghosts, Folk Monsters, and Aliens in Manga – An aspect of Japanese Media Arts –」(習合のファンタジー:日本メディア芸術の一断面)

会場:MATADERO MADRID, Nave 16 Plaza de Legazpi, 8, 28045 (スペイン・マドリード市)
会期:2016年1月20日(水)~1月31日(日) オープニング:1/20(水)19:00~
(開館時間:平日 16:00~21:00/土・日 11:00~21:00 ※月曜休館)

入場料:無料

http://jmaf-promote.jp/

主催:文化庁
共催:マタデロ・マドリード、国際交流基金マドリード日本文化センター
後援:在スペイン日本国大使館
企画ディレクター: 金澤 韻 (インディペンデント・キュレイター)
事業アドバイザー: 吉岡 洋(京都大学大学院文学研究科教授/美学・芸術学)
毛利 嘉孝(東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科准教授/社会学)
運営事務局:一般財団法人NHKインターナショナル

本件に関する問い合わせ先
文化庁海外メディア芸術祭等参加事業事務局(一般財団法人NHKインターナショナル内)
担当:湧井(わくい)・本間(ほんま)・小山(おやま)
E-mail: jmaf-info@nhkint.or.jp TEL: 03-6415-8500 FAX: 03-3770-1829

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業 企画展

「Crazy Planet: Ghosts, Folk Monsters, and Aliens in Manga – An aspect of Japanese Media Arts–」(習合のファンタジー:日本メディア芸術の一断面)

スペインの首都マドリード市の文化複合施設マタデロ・マドリードにて文化庁メディア芸術祭企画展「Crazy Planet: Ghosts, Folk Monsters, and Aliens in Manga – An aspect of Japanese Media Arts–」(習合のファンタジー:日本メディア芸術の一断面)を実施いたします。1549 年にフランシスコ・ザビエルがキリスト教布教のため日本を訪れてからおよそ 460 年、慶長遣欧使節団のスペイン訪問以来 400 年以上の交流の歴史を有する日本とスペイン。近・現代においては、文化・芸術面において活発な交流・往来が行われています。
会場となるマタデロ・マドリードは、マドリード市初の市場として20世紀初頭に設立され、市民の社交場として活況を呈しました。戦時中には軍事施設として、また軍政下では革命軍の基地としても使用されました。1990年代にはスペイン国立バレエ団の本部が置かれた後、1996年よりリニューアル計画が進められ、2007年に現代アートやデザインなど市民の文化芸術活動の拠点となる複合施設として新たなスタートを切りました。マドリード市の歴史を見守り続けてきた本施設で、日本古来から現代にまで受け継がれる、日本独自の「異次元が交錯する世界」をマンガ作品を通じて紹介します。

展覧会コンセプト　　企画ディレクター 金澤 韻

高橋留美子『うる星やつら』(1978—1987)は、宇宙人、妖怪、土俗の神々、時間旅行者、幽霊、民話の中の人物が日本の平凡な町の高校生である主人公の恋の相手役として次々と登場するコメディだ。1970年代社会変革への不信と幻滅から生まれたとも言われるこの奇想天外なSF作品は、中国文化から近代における西洋文化、戦後のアメリカ文化、大量消費社会文化のそれぞれの影響を受け、過度に混交した日本の表象世界を表す、よいサンプルとなっている。この作品はその後、日本の漫画、アニメ、ライトノベル等のカルチャーに大きな影響を与えた。
本展はそのような異次元が交錯する日常を描いた一群からいくつかの作品を紹介し、日本における視覚芸術の一断面を紹介する。また最新の例であるひらのりょう作品を大きく取り上げ、現代のインスピレーションの一端を繙く。私たちのネット接続された現代世界では、このようなイメージの混交はどの国にあっても親近感を覚えるものになっているかもしれない。

金澤 韻/KANAZAWA Kodama
インディペンデント・キュレイター
マンガ、ニューメディアアートを含む日本と世界の現代美術を扱い、国内外で現代美術館のキュレーティングを行う。
東京藝術大学大学院修了後、熊本市現代美術館(2001〜2006)、川崎市市民ミュージアム(2006〜2013)を経て、2013 年 9 月よりロンドン、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートでキュレーティング・コンテンポラリー・アート専攻。主担当として携わった展覧会に「スパイラル 30 周年記念事業展覧会 スペクトラム —いまを見つめ未来を探す」(コキュレーター、スパイラル、東京、2015)、「YŪICHI YOKOYAMA : Wandering Through Maps」(Pavillon Blanc、コロミエ、2014)など。共著に『マンガとミュージアムが出会うとき』(2009、臨川書店)。

作 品 展 示

展示会場の導入部には古くから異次元の世界が交錯する日常が描かれた日本マンガのマスターピースを配し、中央には現代を代表する作家による作品の大型ビジュアルが会場を彩ります。最終ゾーンでは大型スクリーンに映し出されるアニメーションと、原画やキャラクター達のオブジェが展示壁面や空間に溢れ、ひらのワールドを再現します。

マンガ、アニメーション、インスタレーションから成る、ひらのりょうの世界

＊作品解説　金澤韻

■『パラダイス』［2013／短編アニメーション（20 分）］　上映・原画・インスタレーション

©Ryo Hirano／FOGHORN

宇宙に浮かぶ霊園、日本のどこかの町、アジアのジャングル、洞窟、カフェ。めまぐるしく入れ替わっていく舞台に登場する、若い男と鼻を怪我したクマ、日本兵、歯、そして裸の女・・・。脈絡のないシークエンスが積み重なっていき、私たちは不連続なナラティブに惑う一方で、筆致や息づかい、そして風景に、強い懐かしさを覚えます。心の中に関連する記憶を呼び戻し、作家の見せる光景に重ねて、私たちはそれぞれに文脈をつむいでいきます。

■『ホリディ』［2011／短編アニメーション（14分16秒）／第15回アニメーション部門審査委員会推薦作品］
上映・原画・インスタレーション

©RYO HIRANO

山々を繋ぐロープウェイが行き交う、どこかひなびた空気の漂う行楽地。そこに登場するのは、耳に姿を変えてしまう女の子、黄色い姿の裸の男、猫と人間のように歩くイモリ。水が流れる、水を飲む、雨が空から降る、湖に波が寄せるなど水の循環を縦軸に、思慕を寄せる女性との間に起こる憧れの感情、緊張、衝突などを横軸に、時空を切り貼りした描写は、鑑賞者を不可解でありながらも忘れ難い共感へと誘います。

■『ファンタスティック ワールド』［2014／オンラインコミック／第18回マンガ部門審査委員会推薦作品］
■『とびだせ！ミラーボールちゃん』［2015／GIFマンガ］　タブレット・西語版冊子閲覧

©LEED PUBLISHING CO., LTD ©ryo hirano/FOGHORN

地球空洞説を下敷きにしたウェブ漫画（連載中）。地中世界に取り残された地上世界の人間「ビコ」と親友の「歯ちゃん」が様々なキャラクターや出来事に出会っていく冒険物語。人物造形の奇想天外さに驚かされつつも、友情や勝利といった古典的なストーリーテリングに思わず引き込まれる、王道と最先端を同時に感じさせる作品です。（『ファンタスティックワールド』）

■ひらの りょう／HIRANO Ryo

１９８８年埼玉県春日部市生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科卒業。産み出す作品はポップでディープでビザール。自らの貪欲な触覚の導くままにモチーフを定め作品化を続ける。その視点は常に身近な生活に根ざしており、ロマンスや人外のものが好物。

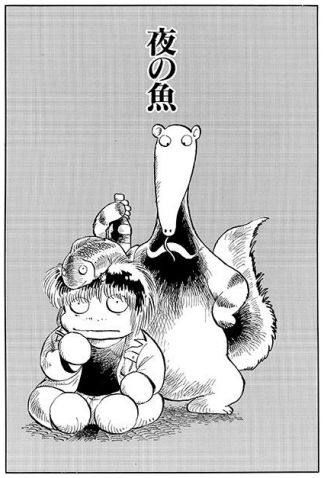
「うる星やつら」から現代まで、複数の文化や時空間が交錯する作品群

■『うる星やつら』 高橋 留美子 ［1978～1987(週刊少年サンデー)／コミック］ 複製原画

©高橋留美子／小学館

地球の命運を賭けた「鬼ごっこ」の地球代表に選ばれてしまった高校生の諸星あたるは、鬼族代表のラムと鬼ごっこの末に勝利しますが、ラムは諸星家にあたるの妻として住み着き、彼女の友人や親戚をはじめ宇宙や異次元の住人が彼らの住む友引町に次々とやってくることになります。日本を代表する人気漫画家、高橋留美子の初連載作品である『うる星やつら』には、宇宙人はもちろん、幽霊、民話の登場人物、土俗の神様などあらゆる位相に属するキャラクターが登場します。彼らの織りなすコメディーは軽妙で斬新であり、その後数々の漫画、アニメーション、小説などに影響を与えています。

■『夜の魚』 吾妻 ひでお ［1992／コミック］ 複製原画



©吾妻ひでお／太田出版

『夜の魚』はカルト的人気を誇る作家、吾妻ひでおの私小説的作品。主人公の友人や、町ですれ違う人々は、動物とも虫とも妖怪ともとれるような異形のものとして描かれています。魚が家の中を泳ぎ、風呂には巨大ナメクジが棲息し、ミサイルが理由もなく追尾してくるような日常は、作者の荒廃した精神状況のメタファーであるとともに、さまざまな視覚情報が入り乱れた日本の街の姿と、そこに暮らす人々のメンタリティを表象しているとも言えます。

■『ナンバーファイブ 吾』 松本 大洋 ［2000～2005(月刊 IKKI)／コミック／第 7 回マンガ部門審査委員会推薦作品］ 複製原画

©松本 大洋／小学館

約7割が砂漠となった、遠い未来の地球が舞台。人工的に作り出された生命体で構成された軍隊「平和隊」の幹部9人を中心に据えた、命と愛情をめぐる人間ドラマです。機械や動物の造形、ファッション、街や世界の情景に、世界各地の民族衣装、伝統的な造形、民話、アニメなどあらゆるソースからの引用が用いられています。そのため未来という設定ではありますが、過去のようでも、また異星のようでもある、独特の世界観が見る者をとりこにします。

■『第七女子会彷徨』つばな

［2008-連載中（月刊 COMIC リュウ）／コミック／第 17 回マンガ部門審査委員会推薦作品］ 複製原画

亡くなったクラスメイトが“デジタル天国” に生きていたり、入学と同時に友達を学校に決められてしまったりする、普通の世界とは異なる奇妙な世界で暮らす、ごく普通の女子高生「金やん」と「高木さん」を描いた作品。時に未来からパトロールが来たり、異生物が紛れ込んで来たり、鏡の中の世界に閉じ込められたりと不思議な出来事が起こりますが、のんびりとしたテンポの毎日の中で、女子高生たちはそれらをごく普通に受け止め、日常生活を楽しく続けて行きます。

©つばな／徳間書店

■『虫と歌』より『日下兄妹』市川 春子 ［2009（アフタヌーン）／コミック／第 14 回マンガ部門審査委員会推薦作品］ 複製原画

虫、植物、海の生物、金属部品など、私たちの通常の概念とは違う命の形を持った家族との生活とコミュニケーション、そして愛と別離を描いています。『日下兄妹』は、高校生の雪輝のもとに現れたタンスの部品が徐々に成長し、ついに妹のようになる話です。その妹、ヒナは実は流星のかけらで、最後には雪輝の故障した肩の部品となって雪輝の体と同化します。お互いを想う気持ちが読む者の心を暖めますが、ここで感情をやりとりするのは人間同士ではなく、無機物であることを改めて思うとき、異星人（エイリアン）との交流というテーマが持つ果てしないイメージの広さを考えさせられます。

©市川 春子／講談社

■『僕は問題ありません』より『線路と家』宮崎 夏次系 ［2012～2013（モーニング・ツー）］／コミック］ 複製原画

生活するには十分なファシリティがある一方、人がまばらでどこか廃れた風景の中、主人公たちは癒されることのない孤独感を生来的に抱えながら、それでも誰かとつながろうとする望みを隠し持っています。そして狂ったような世界観の中にありながら、どの作品も、他者と通じ合うふとした瞬間の、小さなカタルシスが描かれます。この作品には宇宙人も幽霊も妖怪も登場しませんが、コピーを繰り返して破綻したような絵柄、話の筋と関係なく唐突に挿入される情景や物体から、登場人物たちが果たして私たちの通常認識している人間なのか、またこれが現代なのか未来なのか、舞台は地球なのか分からなくなるような、狂った感覚を覚えます。ここで示されているのはキャラクターのレベルの混交ではなく、視覚情報レベルの混交であり、それは世界中で共有されるポストインターネット現象の一環であるかもしれません。

©宮崎夏次系／講談社

関連 イ ベ ン ト

■ トーク ファンタジーはどこからくるのか？ひらのりょうと語る、インスピレーションの源泉

出演: **ひらの りょう**（出展アーティスト）、 Carlos Rubio（コンプルテンセ大学教授）
Marc Bernabé（漫画翻訳家）
モデレーター:金澤 韻（企画ディレクター）

日時:1 月 23 日(土) 17:00～ 会場:Taller, MATADERO

出品作家ひらのりょうがオンラインで登場。本展キュレーターの金澤韻がモデレーターとなり、本展示を日本の視点と外からの二つの視点から論じます。日本のマンガや文学に精通したスペイン人研究者 2 名を交え、ひらの作品のインスピレーションの源泉となった日本社会・文化の独自性、特異性についてディスカッションします。

■文化庁メディア芸術祭 受賞作品上映

日時:1 月 23 日(土) 19:30～

上映プログラム:Portrait of Japanese Animation－日本の映像描写

会場:Taller, MATADERO

■ギャラリーツアー

日時:1 月 23 日(土) 13:00～

会場:MATADERO Madrid, Nave 16

共催 イ ベ ン ト

■国際交流基金メディアアートカンファレンス
【クロッシング・ポイント ― 日本のメディアアート／ゲーム／ポピュラー文化】

登壇者: **吉田 寛**（立命館大学教授）
大久保 美紀（パリ第 8 大学造形技術学部講師）

日時:1 月 26 日(火) 16:00～

会場:Medialab-Prado

■文化庁メディア芸術祭 受賞作品上映

日時:1 月 26 日(火) 18:30～

上映プログラム: Beyond the Technology—デジタル技術を超えて
エンターテインメント・アニメーション部門セレクション 2015

会場:Medialab-Prado

参　考

文化庁メディア芸術祭について

文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度（1997年）の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰し、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。今年度［第19回］は、世界87の国と地域から4，417点の作品の応募があり、文化庁メディア芸術祭は国際的なフェスティバルへと成長を続けています。 また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開や創作活動支援等の関連事業を通じ、次代を見据えたフェスティバルを目指しています。

■文化庁海外メディア芸術祭等参加事業
本事業は、世界各地のメディア芸術関連施設やフェスティバル等にて文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に上映・展示・講演を行う文化庁メディア芸術祭の関連事業です。

平成 26 年度［第 18 回］文化庁メディア芸術祭受賞作品

海外メディア芸術祭等参加事業（第12回チリ・ビエンナーレ 2015）

平成27年度［第19回］文化庁メディア芸術祭

受賞作品展	2016年2月3日（水）～2月14日（日） ※国立新美術館は2月9日（火）休館 会場：国立新美術館（東京・六本木）他
ウェブサイト	http://j-mediaarts.jp
Facebook	http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival
Twitter	@JMediaArtsFes

19th JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL
第19回 文化庁メディア芸術祭

NHKインターナショナルは、文化庁が主催する文化庁メディア芸術祭の関連事業である「海外メディア芸術祭等参加事業」の企画運営を受託し、日本のメディア芸術の発展に努めています。